



令和7年10月14日(火)
石垣市立白保小学校
TEL: 86 - 7840
FAX: 86 - 7396



今年のスローガンは「燃やせ！さぶっ子魂!!～絆の呼吸 壹ノ型 一致団結～」です。大人気アニメ「鬼滅の刃」を知らない人にとっては？？だと思いますが、考えた子どもたちは真剣そのもの。心や魂を燃やせるくらいの五感をフル活用するほどの原体験を子ども時代にたくさん経験した子ほど、その後の人生に良い影響があることが分かっています。目的意識が高い、良い人間関係を築いている、精神的に安定している人たちは、子ども時代の原体験の記憶が鮮明で大人になっても忘れないそうです。生きる力となるのは、子ども時代にどれだけ夢中になれるかがカギのようです。

教育事務所&教育委員会 総合訪問

2日(木)八重山教育事務所の「総合訪問」と呼ばれるものがありました。事務所長と指導主事らをはじめ、石垣市教育委員会からは教育長と課長、指導主事を合わせ、総勢16名の訪問でした。訪問の目的は主に、学校経営や各教師の授業に対する指導・助言を通して、学校の取組や授業改善の支援をすることです。

総合訪問は毎年すべての学校が対象ではなく、八重山地区管内のいくつかの学校が対象として選ばれています。調べたところ白保小は平成25年以来、12年ぶりの総合訪問でした。

さて、訪問では校長と教育長&事務所長との懇談や全指導主事および全教職員を含めた全体会がありました。その中で出た話を一部紹介したいと思います。(たくさんほめられました)

- どの学年の子どもたちも非常に落ち着いて授業に取り組むことができている。今後必ず学力向上につながっていくはず。「自立した学習者」が育つ白保小の将来が楽しみ。
- 先生方がまいた種が芽生え、育ってきているのを感じる。日常生活や授業での指導に対する子どもたちの信頼度が高いと感じた。
- 白保地域の魅力・底力を感じた。海神祭、豊年祭、郡民陸上大会2連覇等、地域の大人たちが子どもが活躍できる場を提供し、文化を継承し、かつ計画的に動いている。地域の中で生きる大人の姿が子どもの成長の支えとなり、地域の力で共に成長して行ける素地が白保にはある。
- 地域の人々の力を学校教育に活かさない手はない。活かすことでさらに伸ばしていけるはず。

学力とは、学ぶ力と書きます。テストなどで数値化できる学力とは違い、子どもが本来持つ学力＝学ぶ力を育てるのが教師の役割であり、それが仕事です。その力を伸ばすことに全力を注ぎサポートをしながら、子どもが「もっと学びたい」と感じた時、教師にとっても子どもにとっても最高の喜びなのです。



さぶハマ 夢☆話 第4話 世持 結生 先生 (教育実習生)

小学生の頃は、ピアノの先生やアナウンサーや看護師になりたいと思っていたそうです。当時勉強で工夫していたことを尋ねると、「分からないことをそのままにせず、友達や先生に聞いていた」と話してくれました。「小学校の先生になりたい」と思ったきっかけは、尊敬できる先生との出会いから「先生っていいなあ」と思い「小学校の先生が一番楽しそうに働いていたから」だそうです。最後に後輩たちに伝えたいことも聞いてみました。今は遠く離れて暮らしているけど、白保ってすごいなと改めて感じている、地域の人々とのつながりや伝統を大切に、子どもからお年寄りまでみんなが優しく迎え入れてくれる、こんな所他にはないと思う。心のふるさと白保で生まれ育っていることに誇りをもって楽しんでください。と締めくくりました。

さらに美しく！PTA 環境整備作業

5日(日)運動会前のPTA環境整備作業を行いました。普段は校長・教頭・教務などが時間を見つけては草刈りを行っていますが、とにかく草の伸びるの



が早く、刈っても刈ってもまた生えてきます。

やはりPTAの皆さんの数と力は大きく、2時間弱の間に、校舎周りがすっかりきれいになりました。



おかげ様で、運動会も安心して思いっきり楽しめそうです。参加していただいた保護者の皆様ありがとうございました。

また、今回は事業部の方々の協力により三本木の剪定も行いました。

余談ですが、樹木の間を抜けるトラックの走路があるのは全国的に見ても珍



い学校だと思います。珍百景に投稿するとTVで取り上げてくれるかも知れませんね。白保村のシンボルでもある三本木、貴重な自然遺産として有名になってほしいと個人的に思います。

今回の夢話は、白保生まれ白保育ち、生粋のさぶっ子だった結生先生にお話してもらいました。



ゆい先生へのしつもん

がっこうのせんせい



3 なぜ小学校の先生になりたいと思ったのですか？



さぶっ子の活躍 各種大会コンクールの入賞・合格

秋季小学生バレーボールチャレンジカップ大会
(8月23日)
【女子Bクラス】3位 白保バレーボールクラブ
【グッドプレイヤー賞】5年 嘉弥真 璃紅

秋季小学生バレーボール大会
(8月30日)
【グッドプレイヤー賞】6年 友利 茅寿



第45回 JC 杯少年野球大会 (9月14日)
低学年の部
【準優勝】白保轟 アカハチ合同



ブルグミュラーコンクール 2025 石垣地区大会
(9月28日)
【奨励賞】小学3・4年 A部門
3年 嘉弥真 柊乃



第89回八重山郡陸上競技大会 (9月28日)
【小学校男子学年別リレー】

第3位 白保チーム 記録: 2分22秒1

1年 本底 時季 2年 多字 鳳晟
3年 本底 瑛也 4年 下河原 晴道
5年 前川 壺太 6年 多字 正穂



10月1日(水) 八重山毎日新聞 より

東大生で組織する東京大学フロンティアランナーズ(UTFR、布川創一代表)が9月29日、白保小学校北田憲司校長で6年生を対象にした講話を行い、勉強する意味や勉強を楽しむことなどを紹介した。

同団体の学生6人が講師を務め、6年生21人と交流しながら授業を展開。「なぜ勉強するか」を見重らに問うと「働く時に必要」、「分からないものが分かるようになる」、「自分のためや人のためになる」などさまざまな考えがあがった。「勉強で直したいところ」については「きちんと宿題をしたい」が最多で、その解決策として「宿題する時間を決める」、「帰ったらまず



白保小の6年生に勉強についての講話をする東京大学フロンティアランナーズの学生ら＝9月29日午後、同校

UTFR 東大生が白保小で講話

勉強楽しむことは？

最初に宿題をする」など習慣化する取り組みが必要と 勉強を楽しむことについて

9月29日(月)の午後、めったに出会うことのない人達が白保小を訪れました。彼らは、UTFRのメンバーでその中から6名が来校しました。メンバーにはかれこれ10回以上も石垣島の学校を訪問している人もいて、夏休みを利用し大学のない離島へき地の子もたちに様々な刺激を与えて来ています。しかし、「勉強ができ、成績が良かった優等生」のイメージが強い彼らに勉強の苦手な子へアドバイス？という疑問もあったのは確かです。

しかし彼らは違いました。東大に毎年何十名も合格する超難関有名進学校の出身ではなく、ごく普通の高校から東大合格を勝ち取った者たちの集まりです。それゆえ、勉強に対する苦労や取り組み方、集中する方法など子どもたちの日常的な悩みに沿ったアドバイスを与えてくれました。また来年も来てくれるそうです。楽しみです！

では「褒美システムを採用したり、宿題をいかに早く終わらせられるかのタイムアタックをしたり、友達とテストの点数を競うなどの工夫をあげた。

和泉悠太副代表は「皆でやる気をあげて前向きに勉強してほしい。心に留めて一つでも良いから実践してほしい」と呼びかけた。

受講した多字正穂さんは「習慣化させるには40日から60日かかるということを知ったので取り組んでみたいと思った。褒美も考えて楽しみながら勉強したい」と話した。

同団体は大学のない離島地域で大学生のイメージを具体化してもらおうと毎年、八重山の小中学校などを訪問する活動が続けている。7年目のことは同校のほか黒島中、西表中、川平小、吉原小、八重山農林高校、公営塾で進路相談会や講話を行った。